

2017年6月4日 聖霊降臨節礼拝説教 牧師 森田幸男

◎聖書 使徒言行録2章1節～13節

02:01 五旬祭の日が来て、一同が一つになって集まっていると、02:02 突然、激しい風が吹いて来るような音が天から聞こえ、彼らが座っていた家中に響いた。02:03 そして、炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった。02:04 すると、一同は聖霊に満たされ、“霊”が語らせるままに、ほかの国々の言葉で話した。02:05 さて、エルサレムには天下のあらゆる国から帰って来た、信心深いユダヤ人が住んでいたが、02:06 この物音に大勢の人が集まって来た。そして、だれもかれも、自分の故郷の言葉が話されているのを聞いて、あっけにとられてしまった。02:07 人々は驚き怪しんで言った。「話をしているこの人たちは、皆ガリラヤの人ではないか。02:08 どうしてわたしたちは、めいめいが生まれた故郷の言葉を聞くのだろうか。02:09 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、02:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、02:11 ユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もあり、クレタ、アラビアから来た者もいるのに、彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは。」02:12 人々は皆驚き、とまどい、「いったい、これはどういうことなのか」と互いに言った。02:13 しかし、「あの人たちは、新しいぶどう酒に酔っているのだ」と言って、あざける者もいた。

説教『一同、聖霊に満たされ語り出す』

◆私達は聖霊降臨節を迎え、神様を礼拝できる恵みに与っております。特に今日は森筐子姉が洗礼に導かれ本当に嬉しく思います。そして神様は「ヤハウェ・イルエ」の神様、全てを備え、導いて下さって、神様が「よし」と思われたその時に、善き事をなさって下さる事をこの森姉の受洗を通して、改めて思い知らされました。この「ヤハウェ・イルエ」信仰は、ユダヤ教、キリスト教において、「信仰の父」と敬愛されるアブラハムの言葉であります。彼の信仰告白であります。神様はすべてを備え、御覧になっておられて、それを成就して下さるお方なのだとこのことを、アブラハムは本当に経験して、「ヤハウェ・イルエ」と告白したのであります。

◆先日夙川教会の石束岳士牧師とある会合で一緒して、この「ヤハウェ・イルエ」のことに話が及び、「北教会の入口の定礎板に、『ヤハウェ・イルエ』と彫られていますが、どういう経緯ですか」と質問を受けました。「実は、いつしか、私たち大

阪北教会の全ての事を、神様が備え、導いて下さることを、皆が覚え、色々な事が重なって、あの御影石に刻む事になったのです」と、お話し致しました。

◆先週、私は泉北伝道所の伝道集会に招かれ、善き時を持つことが出来たのですが、北教会の講壇・説教を丹波恵先生にお願いしました。泉北から帰って礼拝の様子を孝子さんから聞き、直ぐに丹波先生に電話をし、大丈夫であることを確認しました。森筐子さんにもお会いできなかったので電話しましたら、森さんは開口一番、「丹波先生、大丈夫でしたでしょうか」と聞かれました。そして「丹波先生はご自分の命を賭してみ言葉を語ってくださったのですね」とも言われました。本当に私たちが神様を礼拝すること、また牧師が神様の御言葉を取り次ぐ事は、これは命がけの事なのだと思われ改めて思い知らされました。神様は私たちの救いの為に、文字通り全てを注ぎ出して下さる御方であられます。神様に関わることは、全て命がけですね。

◆キリスト教は、そして教会の存立は、やはり驚くべき神様の御愛の導きというか、摂理、経綸、奇跡による事であります。そういう信仰に生きる群れが教会なのだ、新たに覚えるものであります。今日の日曜学校でも同じ聖書の箇所です。説教をしたのです。「ところで、みんな教会の行事の中で、一番好きなのは何か」と質問しますと、間髪を入れず「クリスマス！」とみんな一斉に答えました。「それでは2番目は？」と聞きますと、これも「イースター！」と。「それでは3番目は？」と聞きますと、しばらく考えて、「ペンテコステ！」と答えました。模範解答で驚きましたが、「今日の聖書のはじめに『五旬祭』とあるのは、ギリシャ語で『ペンテコステ』で、『五旬』というのは『50日目』の意味だよ」と説明しました。「五旬祭」はユダヤ教の三大祝祭なので世界中に散在していたユダヤ教徒がエルサレムでお祝いする為に沢山の人が来ていたのです。

◆この『五旬祭』の時に、主イエス様の弟子たちが、聖霊に満たされて、異言＝国々の言葉で話し出したのです。それでユダヤ教の「五旬祭」がキリスト教の「聖霊降臨節」になったわけです。ところで皆さんは、いわゆる「異言」を聞かれたことがありますか。何方もおられないようですね。私は、生まれ育った家の近くの教会でも、東京中会時代でも、ブラジルの教会でも聞いた事があります。所謂「異言」というのは「外国語」のことです。ですから異言を語った弟子達もガリラヤ出身ですから、普通はガリラヤ弁しか話せません。外国語を習った者は一人もおりません。7節以下に記されている通りです。けれども「ガリラヤ出身の彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」と、皆驚いているのです。

◆弟子達による「異言」＝「外国語」の語り出しは、神様が御自分の切なる御愛を誰一人漏れなく伝えようとされた愛の奇跡です。その思いが弟子たちにも通じ、そして弟子たちは聖霊に満たされて、つまり神の霊に包まれて、その霊が体に入って、神様と一体となって、イエス様と一体となって、異言を語り出したのです。そういうことがこの五旬祭の日に関わったのです。本当に神様は私たちの思いをはるかに越えたことを、そしてこうと決められたら、人が奇跡と驚くことも為さってくださるのです。正に「ヤハウエ・イルエ」であります。

◆この「ヤハウエ・イルエ」の一字で、わたしたちはありとあらゆる試練を越えることができます。今日の森筐子姉の受洗については、今日このような事が起こるということを想像した人は、親戚の上田秀樹長老でさえ、今日のこの日のことは想像できなかつたと思います。しかし一人の人が神様の恵みに包まれる。それによって生かされる。今日も、明日も、死の時も、死の後も、神と共に生きる事を許される。そのことを本当に神様は生起させてくださるのです。ですから先ほどの洗礼式の中にもありましたが、イエス様はこう言われました。「罪人が一人でも悔い改めるなら、悔い改めを必要としない99人の正しい人に勝る大きい喜びが天にあるであろう」と。一人の人の生き死には、天に関わる事、神様の最大の関心事なのです。

◆わたしたちは、今年、大阪北教会創立132周年の時を過ごしているわけですが、この132年余の北教会の歩みの中で、多分このようなことは初めてと思うような事が、今、現在進行形で起こっています。それは何かと申しますと、去年9月に、ニッキ・キンキ・コールと云う合唱団が生まれました。そしてそれ以来、月一回、大阪北教会で練習を行っています。森筐子姉は上田長老の勧めでこれに参加されるようになりました。そして、その事が今日の洗礼式に繋がっているのです。それで、5月21日の第9回目の練習の時に、「実は、キンキ・コールの仲間の森筐子さんが、ペンテコステに洗礼を受けられることになりました」と皆さんにお知らせしました。ですから、今日京阪神地区の諸教会の兄弟姉妹が、森姉の受洗を覚えつつ、礼拝を守っておられるのです。こんな事はかつてなかつたことです。

◆そのようなことで、キリスト教は奇跡の宗教です。処女マリアからの主イエス様の誕生。この事実はいつの時代の人にも信じ難いことです。けれども聖霊によってイエス様は身ごもられたのです。神様の御意思で。そして30数年の生涯において、父なる神様と一体なる御方としての御業をイエス様はこの地上においてなされたのです。ところがこのイエス様は十字架にかけられて殺されたのです。しかし、

三日目に復活なさって弟子たちに現われ給うたのです。それから50日後、聖霊としてイエス様が弟子たちに降り給うたのです。そして彼らの内に入り、そして先ほどの洗礼式の式文にありましたですね。主イエス様は、「わたしは世の終わりまであなたがたと共にいるのである」と約束為さいました。イエス様が十字架にかけられた時、正に弟子たちもどん底に落ちたのです。そのペトロたちが立ち上がって、エルサレムで語り出すのです。色々の外国語で、神様の大きな御業について。

◆ですから、クリスマスもイースターもペンテコステも、みな奇跡なのです。奇跡が起こったのです。このような神様も計り難い御憐れみの中に罪人の私もあるのです。そのことを知った時、彼らは立ち上がって、エルサレムで神様の大きいなる御業について、語り出したのです。このペンテコステによって天と地の隔たりは取り払われました。天と地の隔たりがなくなったのです。ですから人間間のどんな隔たりも克服できます。そのためにわたしたちもすべてを賭けないといけないと思います。このようにしてどん底に落ちた弟子たちが神さまの大きいなる御愛と赦し、その神様が今も私たちと共にいてくださるのです。イエス様の永遠のご臨在の中に弟子達がおります。ですから私は私なのですけれど、御霊なるイエス様が弟子たちの中に入られたように、私たち一人一人の中にもイエス様が入ってきて下さって、イエス様が生きておられるのです。ですから、今年の主題聖句はイエス様のお言葉です。「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」。父なる神様がイエス様と一体で働かれます。そのイエス様がわたしたちを遣わす、おっしゃっているのですね。イエス様が私達と一体で善き御業をなさってくださいます。今もなさっておられ、これからも為さってくださいます。私たちは、何時いかなる時も神様に伴われているのであります。そして、すべての困難の壁を破って、善き御業を為さってくださいます。この事を信じて共に歩んでまいりたく思います。

◆お祈りいたします。

いつくしみとまことに満ち給う主イエス・キリストの父なる神様。わたしたちに一人の姉妹を授けてくださり心から感謝いたします。あなたが為さって下さることはすべて時にかなっており、恵みに満ちてうるわしくあります。そのことを新たに覚え感謝いたします。この一事をそれぞれ心に刻み、この後も歩ませてください。

この祈りイエス様の御名を通しみ前にお奉げいたします。アーメン。